



筑波大学附属図書館ボランティア広報紙

第20号

震災と図書館



## 編集にあたって

筑波大学附属図書館ボランティアは活動の一環として広報紙「うたがき」を発行しております。前号「うたがき」第19号は「ボランティア活動15周年記念号」として、15年間の変遷を振り返っての内容でした。

昨年3月11日におきた東日本大震災から1年が経ちました。地震・津波・液状化・原子力事故等により、未曾有の大災害となりました。地震の直後は、図書館の被害について大きく報道されなかったように思いますが、被災地の図書館ではそれぞれ甚大な被害があり、復旧に向けての努力が続けられました。本号「うたがき」第20号では、私たちの活動場所である中央図書館・体芸図書館の被害と復旧の経過を中心にまとめました。写真は筑波大学ウェブサイトより転載しました。また、水戸市にある茨城県立図書館の見学報告を最後に掲載しました。

広報紙「うたがき」は第17号から筑波大学電子図書館ウェブサイトのボランティアのページに掲載されています。私たちボランティアの活動をより広くより多くの皆さんに知っていただければと願っています。附属図書館ボランティアの活動にご興味をもたれた方々のボランティアへの参加を歓迎します。

広報部員一同

## 東日本大震災からの復旧活動を振り返って

附属図書館情報サービス課長

熊淵智行

平成 23 年 3 月 11 日に発生し、東北 3 県を中心に東日本全域に甚大な被害をもたらした東日本大震災では、多くの大学図書館も被害を受け、国立大学図書館協会会員の 91 館に限っても 33 館から資料の落下、書架の転倒や破損、建物の損壊などの物的被害が報告されています。本学でも、書架の倒壊や天井や壁面の破損・落下が著しい体芸図書館をはじめとした施設・設備の被害に加え、学内全蔵書の 6 割にあたる約 150 万冊もの資料が書架から落下する大きな被害に見舞われました。

本学が平成 23 年度の授業等を通常通り実施することを決定したのを受け、教育・研究活動に不可欠な図書館の機能を一刻も早く正常な状態に戻すことが図書館にとっての大きな使命となりました。とはいえ、ほぼ全ての資料が無秩序に床に積み重なった状態ですから、5 月末までに完全復旧させられるかどうかという見通しでした。そのため復旧作業と並行して、復旧が終わった部分から順次開館し利用可能なエリアを拡大しつつ、その時点での最大限のサービスを提供することも必要となりました。ボランティアの方々にも日々変化する状況を把握しての活動をお願いすることとなりましたが、柔軟に対応いただけたことには深く感謝いたします。

利用者サービスと並行した復旧作業では、必要十分な人員を確保することは困難なことから、学生の入構制限が解除された段階で学生ボランティアを募ることにしました。3 月 24 日の学内の災害対策会議で附属図書館から報告するまでは、多くの学生の協力を得るのは難しいだろうとの悲観的な予測でしたが、会議直後に学内教員から協力の申し出があり、本学の学生支援 GP である「T-ACT」で「図書館を復旧させよう！」プロジェクトが立ち上がり、多くの学生から復旧作業参加の申し出を受けるに至り、最終的にはのべ 539 人もの学生・教員の支援を得ることができました。その結果、当初の見込みよりも早く、建物への立入りが制限されたままの体芸図書館を除き、5 月の連休明けには復旧作業が完了し、5 月 16 日には図書館サービスが再開できました。教職員や学生の支援により復旧作業の増員が図れただけでなく、参加いただいた教員や学生の「図書館が利用できないことがいかに深刻であるか」、「自分達が使う図書館を自分達の手で復旧したい」といった声は、そうした利用者へに支えられていることを職員に実感させ、モチベーションを一層向上させ、復旧を加速させることにつながったように思います。

多くの人の協力を得て、2 カ月間をかけて資料が書架に整然と並ぶ状態を取り戻した経験は、図書館にとって当たり前前の状態が、どれほど多くの人の労力の上に成り立っていたのかを改めて実感させてくれるものでしたし、大学図書館全体での被災地大学の学生や教職員に対する様々な利用支援活動を含め、学生や教職員、他大学図書館から受けた支援を通して、図書館サービスが様々な人と人との関係で成り立っているサービスであることを再認識させられました。

本学図書館はまだ復旧途上にあり、体芸図書館は復旧工事が開始されたばかりで 5 月までの休館を余儀なくされていますし、落下により破損した大量の図書が全て修理や買い替えを経て書架に並ぶのはまだ先のことです。今後発生し得る災害への対策も万全なものにしておく必要があります。

また、単に復旧させるだけでなく、可能な限り先へと発展させていくことが、復旧を支えていただいた方々に応えることになるはずです。我々の課題は尽きることがありません。

## 図書館と震災 そのとき、その後 ～筑波大学附属中央図書館～

山内 衛

2011年（平成23年）3月11日（金）午後2時46分宮城県沖に発生し、東北・関東地方に大災厄をもたらした東日本大震災。

筑波大学附属中央図書館では、直面した事態にどのように対応したのか、またその後の復旧ぶりについて、同館のウェブサイトをもとに検証します。また、同館で従来から活動に携わっているボランティアが、復旧作業に関わった状況についても触れてみたいと思います。

図書館で大地震に遭遇し、またその後の復旧作業に従事した人たちの活動を記録に残そうと、有志により制作されたポスターが、2011年秋横浜で開催された図書館総合展に展示されました。そのポスターの画像が、つくばリポジトリ中の「67days —3.11からの復旧—」(URL: <http://hdl.handle.net/2241/114581>) に保存されています。その場にいた人たちの動きと気持ちがいへんよく伝わってくるので、その雰囲気を活かすために、とくに発生時の部分をそのまま引用しつつ話をすすめることにします。

### <地震発生>

- 最初はいつものちょっとした揺れかと思った。

小さな地震はそれなりに起きている土地柄です。利用者もふだんからある程度は慣れています。カウンターで対応中だったため、利用者と「もしかして地震でしょうか」と話している間にさらに揺れが大きくなりました。地震だ。それも相当大きい。

- そして停電。

同じフロアの利用者に、机の下に潜るよう指示をしました。

バックヤードで勤務中だった職員が、一斉に館内を見回りに出ます。その間にも、上階の本が書架からばさばさと降ってくる様子が、吹き抜けの窓から見えていました。

大きな揺れが収まってから、利用者をひとまず館外へ避難させました。

このとき避難を優先させたため、身近に荷物があつた利用者とはともかく、ロッカーの中の荷物等は取り出さないようお願いして、とにかくまずは外に出ていただきました。各階とも本の落下は激しく、特に3階、4階にあっては書架の間の通路はふさがれている状態でした。

上階にいた利用者の中には、散乱した本を踏まずに避難することができないため、非常に躊躇された方もいらっしゃいました。

でも、まだ揺れは続いています。建物がどうなるかわからないので、通路確保のために本を撤去している時間がありません。安全確保が最優先ということで、職員も利用者も泣く泣く本の山を越えて外に出ました。

- 建物の外に避難している間にも、次々余震がくる。

大きな地震でしたが、揺れている間にも館内へ入ろうとする方、戻ろうとする方が後を絶ちません。余震で建物が倒壊するおそれもあるので、その旨を伝えて、立ち入りは諦めていただきました。どうしてもという方には、すぐに取り出せるような位置

にある荷物は職員が代わりに取りに入ったり、ロッカーの中にある荷物は後日取りに来るようにお願いしました。

- 情報が入らない。  
全学的に停電が起きたため、固定電話が使えず、大学内の情報が入りません。  
ラジオの入りも悪く、東北のほうで大きな地震があったようだ、ということがわかるだけです。携帯電話もPHSもつながりません。
- 筑波地区の3つの分館は。  
停電で電話が通じないため、職員は直接行き来して情報を伝達し合いました。  
(注：体芸図書館、医学図書館、図書館情報学図書館は、いずれも大きなダメージを受けていました。)
- 当日の被害状況確認。  
待機の後、大学からの避難指示が帰宅指示に切り替わりました。  
状況確認のために、防災対策をした上で、改めて館内に入りました。  
まず中央図書館では、ヘルメットを着用し、電気が点かないので懐中電灯をもち、二名一組になって、書架の間に人が倒れていないか等を確認して回りました。  
帰り道では、信号機が停電のため作動せず、主要な交差点には警官が立ち、手旗信号で指示を出していました。ガソリンスタンドにはすでに長蛇の列が出来ていました。

<一刻も早いサービス再開をめざして>

余震、断水、学内入構制限等、先が見えない状況が続きました。しかし、早くサービスを再開したい！もとに戻したい！という思いは焦燥感に代わり、分担して復旧作業を進めていきました。

- 電子的サービスの再開。  
3月14日にTwitterを開始し、16日にWeb ページを立ち上げました。Webサービスが多数あり混乱が予測されたため、当初は臨時版HPとしました。部分開館を開始した3月29日に通常版に戻しました。大規模停電の恐れが出てくるその都度、サーバーを停止し、安定的なサービス提供までにはしばらく時間がかかりました。
- 復旧作業（中央図書館）。  
中央図書館は、3年間にわたる耐震改修工事がこの2月に終了したばかりでした。そのおかげか建物には大きな被害はありませんでしたが、蔵書の約6割110万冊が書架から落下しました。数千冊の図書が破損しました。  
強い地震でまた資料が落下するかもしれない、ゆがんだ書架の修理・調整時は資料が入った状態でよいのか等、不確定要素等ありましたが、110万冊の仮置き場等あるわけもなく、覚悟をきめて書架へ本を戻すことにしました。  
書架間だけでなく、通路まで本が埋め尽くし、本を踏まずには館内見回りもできない状況。まずは通路を作るところから開始です。作業順序は、部分開館に向けてメインフロア2階 → 耐震改修工事終了に伴う資料移転作業中だった1階・中2階・本館5階（4月5日には業者作業再開） → 本館3階・4階（図書） → 新館（雑誌）。  
作業開始当初は、見渡す限りの本の海に途方にくれましたが、明けぬ夜はないのですね。部分開館前日までの作業量は延べ320人。学群学生の学内入構規制の解除より早

く、3月29日に部分開館を果たすことができました。

以上はポスターの内容の一部ですが、中央図書館本館では、3年間で費やした耐震改修工事の終了直後であり、この点では非常に運が良かったと言えます。

ここ中央図書館の被害と復旧状況について。

- \* 学生等利用客、職員ともに被害がなかった。
- \* 施設・設備の被害：ガラス製たれ壁の破損、破片の落下
- \* 図書館資料の被害：110万冊が落下。とくに3～5階の資料の大半が落下。

復旧：3月29日に本館（2階、1階の一部スペース）再開。

4月4日（本館3階）、4月20日（4階）、4月22日（本館5階）、5月9日（B書庫を除く1階中2階、新館（3～5階））と順次開館し、5月12日に全面再開。

書架への資料戻し作業：4月5日～4月28日にかけて、震災により中断していた耐震改修工事終了に伴う本館（5階、1階、中2階）への資料の戻し作業を実施。

資料（図書など）の書架への復旧作業では、学生ボランティアの協力（4月1日～4月21日）。

図書館ボランティアの活動：頻発する余震の危険性を考え、3月11日以降はボランティア全員が活動を控えていましたが、4月4日～4月15日の間、手伝える人だけという条件下、延べ57人が本館で図書の戻し作業に従事しました。その間、4月11日戻し作業中、強烈な余震に襲われ、いままで戻した本があつという間に落下するのを目の当たりにして、なぜか賽の河原という言葉が頭の中をよぎったものです。相手は不羈奔放にやってくる地震、津波。だがとっさの場合にどう対処したのか、この図書館のみなさんの奮闘ぶりが大いに参考になりました。



(写真は、つくばリポジトリ"67 days -3.11からの復旧-"より)



中央図書館A書庫の床に発生した亀裂です。(3月17日撮影)



中央図書館新館5階の集密書架です。  
下手に動かさない状態です。(3月14日撮影)



中央図書館新館1階の貴重書庫です。貴重な本が  
残念なことになっています。(3月14日撮影)



## 体育芸術図書館の被災とボランティア活動

太田恵理子

2011年3月11日の地震は、筑波大学の附属図書館にも多大な被害を与えたが、その状況は各図書館により大きく異なっていた。筑波地区の図書館の中でも比較的被害が軽微であった図情図書館等と比べ、地震後ほとんど立ち入りが不可能となった体芸図書館の被害はとりわけ甚大であったといつてよいであろう。図書館HPの『東日本大震災 被災状況画像』(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/shinsai/photo.php>) をご覧いただければ、その被害の甚だしさがお分かりになるものと思う。蔵書の落下のみならず、設備の損壊、倒壊まで、その被害は他図書館の比ではないように思われる。

筑波大学開学直後の1974年7月、他の図書館に先立ち、筑波地区に最初に開館したのが体芸図書館であった。まだまだ整備途中であった筑波研究学園都市にできあがっていく新しい大学の図書館として、その設計は斬新なものだったと推測される。雑誌「新建築」1974年11月号にその紹介記事があるのだが（『筑波大学 体育・芸術専門学群中央棟 図書館 槇総合計画事務所』）、残念ながら体芸図書館所蔵の雑誌のため、今は閲覧が不可能である。

体芸図書館においてになった方ならその建築のユニークさがお分かりのことと思う。入り口のある2階から1階に降りていく階段と開放感のある吹き抜け、そして年を経て大きくなった樹木が見通せる突き当たりの大きなガラス窓。吹き抜けの中を上っていくような3・4階への階段。3階の広々とした大閲覧室とそれを見下ろす位置にあるセミナー室と研究個室。大閲覧室奥の教官閲覧室にはセミナー室へと続く螺旋階段まである。ガラスが多用されていて、一般的な図書館にある閉鎖的な感じは書庫部分を除いて感じられない。

開館以来、時間の経過に従い、書架の更新、部分的な改修・修理などが行われてきているとはいえ、中央図書館のような徹底的な耐震補修が行われる前にこの地震に見舞われたのは残念なことであった。

毎週月曜午前に1階の吹き抜けや2階のラウンジ、3階の大閲覧室などで展示会のポスターの掲示・整理やデータベースの作成をするボランティア活動（特殊資料整理）をしていた私たちにとって、もしこの地震が自分たちの作業時間中に起こっていたらと思うと背筋が寒くなる。例えば『東日本大震災後の状況について』（平成23年5月、[http://www.tsukuba.ac.jp/disaster0311/risai\\_joukyou.pdf](http://www.tsukuba.ac.jp/disaster0311/risai_joukyou.pdf)）に掲載されている図書館の被災状況の写真のほとんどは体芸図書館のものであるが、どの写真も毎週そこに座って、或いは立ち入って作業をしていた場所の写真である。いつも使っていたPC端末が机から落ちてガラスの破片の中に転がり、南側に隣接している和雑誌の書架は将棋倒しになり、閲覧室では大好きだった展示会目録が床に散らばり、空調機が落下している。特殊資料整理には広い机とPC端末が不可欠であるため、体芸図書館での作業は、震災後、当然のことながら不可能となった。

震災直後は危険のため立ち入りが禁止され、一部開館された後も作業を行う場所がなく、ボランティア活動は不可能とのことで、破損図書は修理作業のみが（当然、修理を必要と

する蔵書は激増したのだから）他の図書館に場所を借りて、続けられている。ボランティアが修理する図書は体芸の図書に限定されておらず、貴重書以外で、かつ業者に依頼する必要のない図書を対象におこなわれており、4月6日から週1回3時間程度の活動で5月18日までに176冊を修理、活動は引き続き行われている。

少しずつ、認知度を高めていた展覧会ポスターのデータベース作成作業は、送付されてくるポスターが年々増加して、最近では年に800枚を越えていたのだが、その整理・入力作業はほぼ10ヵ月中断された。ようやく2012年1月末から、中央図書館で少しずつ整理を始める事になったが、同時進行で行っていた古いポスターの遡及入力は中断したままである。こちらは2012年5月の復旧工事の完了をまって再開の予定である。

震災直前の2011年1月に耐震補修工事を終えたばかりだった事もあり、膨大な蔵書が棚から落下したものの、震災復旧ボランティアの方々の協力によって、比較的早期に再開の運びとなった中央図書館に比べて、同様に蔵書の落下があったものの、建物の状態が危険とのことで立ち入りを制限され、ボランティアの入館も不可能のため、図書館職員の方々のみが交代でヘルメットをかぶって復旧作業に従事されたという体芸図書館は筑波地区の図書館の中でただ一館、再開を待たれている状況である。建物自体の危険により、ボランティアが活動すること自体が不可能という、残念な状況に陥ったのが体芸図書館なのである。震災後、まもなく一年になろうとしている今、振り返って考えてみると、体芸図書館は、蔵書自体の被害のみならず設備の被害の甚大さは驚くべきものであったが、このような被害にあいながらも、人的被害が皆無であったことは本当に幸いというべきであろう。

体芸図書館は体育・芸術に特化した図書館として3階の芸術関係の図書、4階の体育関係の図書（あわせて約24万冊）をはじめ、東京師範学校附属の体操伝習所として明治18年に開学した東京体育専門学校の旧蔵書（約5400件）、東京オリンピック関係資料、バウハウス叢書と展覧会目録コレクション、展覧会目録（約5000件）、美術館展示等のポスターなど、特色ある資料を所蔵しており、また、雑誌類も体芸図書館でしか見られぬものも多くあり、当該分野の研究をする方々にとって、その閉館中の不便さは想像に難くない。個人的には、再びあの美術書の森に分け入る楽しい時間が戻ってくるのを心待ちにしている。



体芸図書館3階大閲覧室・吹き抜け側のガラスが破損。



体芸図書館 3階閲覧席です。天井から空調通風孔が落下してきました。(3月14日撮影)



体芸図書館 1階吹き抜けです。ガラスの破片が落下していて、危険な状態です。(3月14日撮影)



体芸図書館 1階の転倒した和雑誌バックナンバーの棚です。振れ止めが大きく歪んでいます。

## 東日本大震災における医学図書館、図書館情報学図書館、 大塚図書館の被害状況について

牧 真理子

### 《医学図書館》

1. 人的被害：利用者、職員とも被害なし。
2. 施設、設備の被害：①天井部温水管の破損 ②一部天井の破損、落下等
3. 資料の被害：約 11 万冊が書架から落下。天井部温水管の破損で、医学基本図書（約 2 千冊）が水濡れ。
4. 復旧経緯：3 月 29 日から天井落下の一部危険箇所を立ち入り禁止にして開館。



医学図書館 1 階です。余震が続く中、天井からの水漏れから資料を守るために、ビニールシートを広げました。（3 月 11 日撮影）



医学図書館 2 階で乾燥中の水濡れ本です。紙はゴワゴワになっています。



医学図書館 2 階です。天井が落ちてしまいました。(3月14日撮影)

《図書館情報学図書館》

1. 人的被害：利用者、職員とも被害なし。
2. 施設、設備の被害：大きな被害なし。
3. 資料の被害：約9万冊が書架から落下。
4. 復旧経緯：3月29日は1階の一部分のみ開館。順次エリアを拡大し、4月8日に全面開館。
5. 学生ボランティアの協力：3月28日～4月8日（平日のみ10日間）。のべ64名。



図情図書館 1 階です。全部落下したわけではありませんが、通路が埋まってしまっています。(3月11日撮影)

《大塚図書館》

1. 人的被害：利用者、職員とも被害なし。
2. 施設、設備の被害：大きな被害なし。
3. 資料の被害：一部の図書が書架から落下。
4. 復旧経緯：4月1日から通常開館。

## 茨城県立図書館見学報告

森田 武

### 茨城県立図書館について

11月18日、秋も半ばと云うのに、凍える寒さの中、茨城県立図書館へボランティア交流会のため、訪問した。おりしも当日、平成23年度茨城県指定有形文化財に登録された当館所蔵の『徳川光圀書翰集』が展示されていた。書翰の内容は、貞享4年(1687)年に江戸幕府が発令した『生類憐みの令』に対する光圀の見解などが記載されている。將軍綱吉と腰巾着のお側用人柳沢吉保が企て、江戸市民を苦しめた「天下の悪法」を批判するなど、我々が「水戸黄門」の心意気を感じられた。これらの真筆に接すると「今眼前に古人の心を閲す」心地になった。また、武家社会の生活や日本最初のジェンダー問題を書いた山川菊栄文庫や、赤ちゃんから子供までのチャイルドブックの充実など、茨城の歴史や文化を醸し出し、子供から大人まで楽しく学べる「明るく便利な開かれた図書館」である。

### 東日本大震災対応について

平成13年に旧茨城県議会議事堂を改修して、県立図書館としてオープンした建物は、エントランスホールが1階から3階まで吹き抜け構造で、議事堂跡も、建物の中心部に有りやはり2階から3階まで吹き抜けて、建物全体が事務室仕様になっている。そのため、床加重の強度を必要とする図書館には少し無理があると思った。今回訪問した時はほぼ震災前の姿に復旧し、震災の傷跡は残し



図書館エントランス



落ちた天井パネル

ていなかった。

県立図書館の修理ボランティアの方々から、震災時の生々しい状況やその後の復旧作業について報告された。ボランティアが作業する事務室は、窓側は厚いガラスの開閉出来ない嵌め込み式で、出入り口のドアは一箇所しか無く、常に非常時退避の心構えが念頭にあった。震災の日は、地震と共に、「火事です！火事です！！」との館内一斉放送で、車のキーや財布、携帯電話、防寒コートなど全てをそのままに外へ飛び出した。その時目にしたのは、エントランスのコンクリート壁や天井板の落下するすさまじい光景だった。すぐエントランスは立入禁止となり貴重品を取りに館内に戻れたのは、1週間後だった。

建物の被害、図書資料の被害は甚大だった。書

架から図書の落下、多い所で8割25万点、大きい本も落下したので自重で背はずれ、のど弛み等の破損、大量の本が積み重なったため背割れなどの破損が多く発生した。5月末まで被害状況の把握・整理、6月から図書館職員とボランティアと一緒に協力した懸命な修理活動を実施し、9月10日に半年振りに開館へこぎつけた。

図書館ボランティアの方々が、一日も早く県民に図書サービスを提供したいという、一途な熱い想いを抱き、未曾有の災害に立ち向かい乗り越えて来たことに改めて敬意を表したい。

\*写真は茨城県立図書館よりお借りしました。

## 茨城県立図書館図書修理ボランティア交流会に参加して

山川輝男

平成23年11月18日茨城県立図書館図書修理ボランティア交流会に参加して、意見の交換・実技の見学を行いました。

今回の震災で判明したのですが、明るい独立した専用のボランティア室を持ち、工夫を凝らした各種の修理工具、そして豊富な材料を揃えた環境は、うらやましい限りでしたが、反面、密室状態であり、出入口は1カ所だけでその出入口が塞がれたらと想像すると背筋が凍る思いがしたそうです。

事実、震災の時は金曜日で活動中でしたが、激しい揺れに驚いて作業衣のままで外部に避難した人々もいたそうで、安全確保のため震災後1週間は建物内に入れず、部屋に残したコート、バッグ、そして車のキー等を持ち出すことが出来ず、大変不自由を感じたそうです。

さて、今回の震災の書籍に与えた被害は約6,000冊で、落架による破損が大半で、当方と類似の傾向にあり一筋縄では処理が困難なものが多いとのことでした。

震災の説明の後で書籍の修繕の現場を見学しました。まず、ボランティアの皆さんの修理技術の高いことには驚かされました。それに加えて書籍修理に対する考え方、そして意気込みには、感動すら覚えました。さすが県立図書館のボランティアスタッフです。

私達も是非参考にしたいと思いました。

最後に出来うれば、県立図書館ボランティアスタッフ主導で、県内各図書館からの、電話、ファックス、メール等での問い合わせに対してご指導いただけるようなシステムを構築していただければ幸いです。



修理実技情報交換の様子

## 図書館ボランティアについて

### 図書館ボランティア

筑波大学は開かれた大学として地域社会との融和を図っております。その努力の一つとして1995年6月1日には全国の国立大学に先駆けて図書館ボランティア制度を発足させています。

図書館ボランティアはつくば市およびその周辺に住む家庭の主婦、定年退職者などから選ばれており、現在約50名近くの図書館ボランティアが活動しています。いずれも生涯学習に大きな関心を持ち、ボランティア活動に熱心であり、豊かな人生経験と教養を備えた人々であります。図書館ボランティアはその活動を通じて、開かれた大学としてのイメージを高め、図書館サービスの向上に、地域社会との融和に貢献しております。

図書館ボランティアはおもに中央図書館で活動し、2階・4階ボランティアカウンターを定位置としております。

その主な活動は：

- 1) 図書館総合案内  
館内窓口案内、資料配置案内、資料探索案内、端末機操作案内、  
各種申込記入案内、身体障害者や日本語に不慣れた外国人へ図書館利用  
支援。
- 2) 対面朗読  
視覚障害者のための対面朗読、館内での資料探索支援。
- 3) 利用環境整備  
中央図書館及び体育・芸術図書館各階の書架の整理、図書の修理、図書  
ラベルの貼り直し、など利用者が使いやすい環境を整える。
- 4) 体育・芸術関係資料の整理  
美術展ポスターなどの整理。
- 5) その他  
外国人のための日本文化紹介、留学生オリエンテーションの補助、  
図書館見学案内。

などです。

上記 1) 図書館総合案内および 3) 利用環境整備のため、図書館ボランティアは毎週、月～金の5日間、午前のシフト（10時～13時）、午後のシフト（13時～16時）に分かれて活動しています。

視覚障害のある方には上記 2) 対面朗読など、訓練されたボランティアによる支援を行っています（予約が必要）。

留学生の皆さん、図書館を利用されるにあたって、わからないことがあれば、ご遠慮なく図書館ボランティアに相談してください。

図書館ボランティアは喜んでお手伝いします。



## **ON THE LIBRARY VOLUNTEERS**

**Prepared by Volunteer**

**The University of Tsukuba has been maintaining its policy to be friendly to the public, and maintain good relationship with the local community. As one of its efforts toward that objective, the University took a lead to adopt a library volunteer system. The system was started on the first of June 1995, which was said to be the first one among the national universities in Japan.**

**The number of library volunteers is nearly 50 persons. The system is mainly organized with housewives and retired persons who are living in Tsukuba City and its vicinity. They are having a continued interest on life-long learning, and are well experienced in their lives with good common sense.**

**It is believed that efforts of these volunteers have contributed for maintaining friendly images of the University and good relationship with local community. Furthermore it brought a lot of improved services of the Library as well.**

**The library volunteers are generally stationed on the 2nd and 4th floor of the Central Library of the University. Their major missions are:**

**1) General Information Service on the Library:**

**on general information, on document layout information, assist document search, assist PC-terminal operation, assist filling out various application forms, assist handicapped persons and foreign visitors**

**2) Assist Sight -handicapped Persons:**

**assist document retrieval and readout these for them**

**3) Maintain Library Environment (Shelf Reading):**

**check arrangement of books on shelves and their "call number tags" (light maintenance work on books to keep the library environment friendly to users)**

**4) Restore Materials in the Arts and Physical Education Library:**

**5) Others:**

**introduce Japanese cultures to foreigners, assist library orientations for foreign students, library tour guide**

**On weekdays, from Monday through Friday, the service of volunteers is done in two shifts, that is, morning shift (10:00 to 13:00) and afternoon shift (13:00 to 16:00).**

**For sight-handicapped persons, services by specially trained volunteers for the above item 2 is available when requested. (Reservation is needed.)**

**Whenever any question comes out in your mind, please feel free to contact volunteers at the Volunteer Counter on the 2nd and 4th floor. They are willing to help you.**

# うたがき

筑波大学附属図書館ボランティア広報紙

第20号

震災と図書館

平成24年3月発行

編集：筑波大学附属図書館ボランティア広報部

発行：筑波大学附属図書館

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL:029-853-2348（情報管理課）